

令和元年5月14日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K19168

研究課題名(和文) 留学生を起用した理系学生向け医療英語学習用教材・教育カリキュラムの開発

研究課題名(英文) Development of materials and curriculum for medical English education of undergraduate students using the support of international students

研究代表者

村上 学 (Murakami, Manabu)

北海道大学・医学研究院・助教

研究者番号：30617436

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、学部レベルの医学英語教育(「医学英語学習用教材・教育カリキュラム開発」)を推進するためのものであった。

国籍・バックグラウンド・所属の異なる多様な留学生を起用した、理系学生を広く対象とする持続可能性のある医療英語学習用教材・カリキュラムを開発するという目的について、平成28年度～平成30年度の3年間で、基礎的なニーズ調査、教材開発、授業計画・立案まで含めて予定通り達成した。

教材開発の目的のみならず、留学生を医学教育に起用するためのノウハウ蓄積についても達成でき、本研究成果は、医学英語教育領域全体において大きく貢献するものと期待される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医学英語教育の問題点とされている人的資源の欠如(医学の専門的内容と英語の語学的内容)の双方をバランス良く指導できる教員が少ない)を克服する持続可能な教授法開発の一助となると共に、今回作成されたプロダクトとしての医学英語教材は、国籍・バックグラウンド・所属の全く異なる複数の留学生の貢献によって開発された、汎用性の高いものとなっている。

大学教育のグローバル化を背景として、受入・派遣される交換留学生の数は増加の一途をたどっているが、これまで医学領域において、受入した留学生を起用して教授法・教材を開発するような研究の例は少なく、本研究の学術的・社会的意義は、大変、大きいものと期待される。

研究成果の概要(英文)：This research is aimed at promoting medical English education of undergraduate students by "developing materials and curriculum for medical English education".

For the three-year period from 2016 through 2018, we fulfilled the purpose of this research; development of sustainable materials and curriculum for medical English education of undergraduate students using the support of international graduate students of different nationalities, backgrounds and laboratories. We accomplished the research plan, including investigating fundamental needs, developing educational materials, planning and providing classes, as scheduled.

Not only could we develop the educational materials, we could also accumulate know-how to apply the international students' support for promoting medical English education. The research results are expected to greatly contribute to the whole region of medical English education.

研究分野：医学教育

キーワード：医学英語

1. 研究開始当初の背景

大学教育のグローバル化の流れで、他の科学領域同様、医学領域においても英語教育を効果的に行うための研究の必要性が高まっていた。医学の専門的内容と語学的内容(英語)の双方をバランス良く指導できる教員が少ないという人的資源の問題を解決する必要性、並びに、適切な教育手法(使用教材含む)を開発する必要性が高まっていたことが、本研究の背景の問題として存在していた。

2. 研究の目的

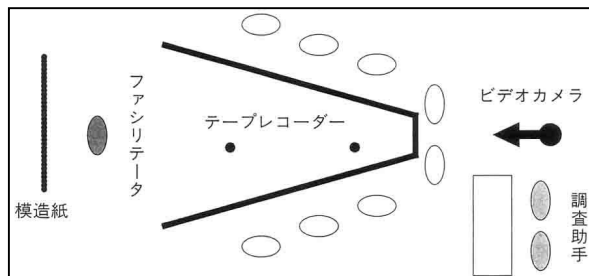
上述の背景的問題を解決すべく、国籍・バックグラウンド(職種)・所属が異なる留学生(大学院生)を起用し、理系学生を広く対象に、医学英語を教育するためのテキスト教材、教育カリキュラムを開発し、模擬授業を行うことを本研究の目的とした。

3. 研究の方法

ニーズ調査・授業計画立案から、教材制作、模擬授業実施までをセットとして、準備期間2年・模擬授業1年の、計3年で行うこととした。

最初の1年は、医学英語に興味・関心のある、医歯薬看護系・理工系学生を広く対象に、フォーカスグループインタビューの手法を用いたニーズ調査を実施し、その結果をもとに、研究代表者並びに研究に関係する留学生で、授業計画を立案することとした。

(フォーカスグループインタビューの実施例)

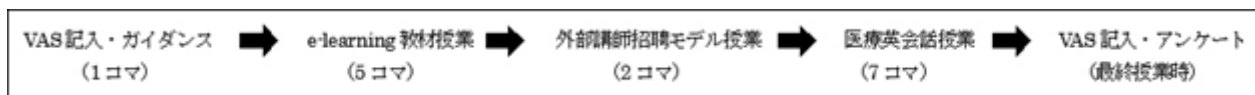


「医療英語について、どのような内容を身につけたいか」自由記載できる質問紙のついた同意書を用意し、最初に記入し、また、討論を深めるための関連質問を、5項目箇条書きにして質問項目・流れとしてまとめた。5名/グループ×4グループの調査を行い、各グループのインタビューは、60分とした。なお、上図は、「瀬嶋克之ら、フォーカスグループの実際的方法論の一例。日本プライマリ・ケア学会誌。2001;24:126-132。」から引用したもので、この配置に倣ってインタビュー調査を実施することとした。

次の1年は、前年度のニーズ調査の結果をもとに、各国の文化・医療事情を含めた医学英語授業のテキスト教材を制作することとした。

最終年度の1年では、実際に模擬授業を実施し、教育効果を測定し、最終報告をまとめることとした。

(模擬授業実践の流れ・全15コマ)



4. 研究成果

上述の方法通りに、最初の1年では、対象者のニーズ調査を行い、教材開発のための基礎データを収集することができた。また、それに関連して、医学英語教育に関連する学会発表3件も公表することができた。合わせて、先駆的な医学英語教育を行っている研究者から成功事例を含む有益な情報を得ることができた。

次の1年では、関係する留学生に加えて、外国人教員や博士課程研究員にも加わってもらい、教材制作並びにブラッシュアップを行うことができた。また、有識者との意見交換や最終年度に行う模擬授業の授業計画についても、準備を整えることができた。

最終年度の1年では、模擬授業実施と研究総括を行った。模擬授業について、受講生からのフィードバック(予定された授業アンケート)を確認したところ、非常に高評価であり、ニ-

ズ調査の結果が十分生かされた模擬授業となったと判断された。

本研究の最終成果として、国籍・バックグラウンド(職種)・所属が異なる留学生(大学院生)を起用した医学英語の模擬授業実施によって教育カリキュラム開発を成功させたのみならず、今後、研究代表者の所属する大学に交換留学生として来学する海外の学生や、逆に海外に派遣される日本人学生が、各々、自習用としても利用できる非常にレベルの高い教材を残すことができたことが挙げられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

Murakami M, Tanaka Y, Tsuburaya Y, and Otaki J. What exchange students expect of clinical electives in Hokkaido University: Questionnaire survey. *Hokkaido J Med Sci*. 査読有. 2019. (in press)

村上学, 田中由加利, 円谷友紀, 畠山鎮次, 大滝純司. 「国際連携教育」～学生受入の現状と課題. *北海道医誌*. 査読無. 2019. (in press)

Murakami M, Tanaka Y, Kawabata H, Kohanawa M, Otaki J. Understanding the circumstances regarding students' overseas electives and considerations for enhancing their motivation: Questionnaire survey in a medical school. *Hokkaido J Med Sci*. 査読有. 2017;92:77-81.

〔学会発表〕(計 4 件)

村上学, 田中由加利, 川畑秀伸, 小華和柁志, 大滝純司. 北海道大学に交換留学生として来学し臨床実習を行った学生へのアンケート調査. 第 49 回日本医学教育学会大会(札幌). 2017.8.18.

村上学, 井口香織, 川畑秀伸, 小華和柁志, 大滝純司, 吉岡充弘. 北海道大学医学部医科学科学生が交換留学で海外実習(研究・臨床)に望む内容についてのアンケート調査. 第 48 回日本医学教育学会大会(大阪). 2016.7.30.

Olga Amengual, 村上学, 坊垣 暁之, 奥健志, 渥美達也. 大学院生に対する卒後医学英語教育の試みとプライマリ・ケア領域への医学英語教育の提言. 第 4 回日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部会(札幌). 2016.7.24.

Olga Amengual, 村上学, 坊垣 暁之, 奥健志, 渥美達也. 学部生に対する卒前医学英語教育の試みとプライマリ・ケア領域への医学英語教育の提言. 第 4 回日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部会(札幌). 2016.7.24.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称: 該当せず
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称: 該当せず
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年:

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等： 該当せず

6．研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名： 該当せず

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名： 大滝 純司

ローマ字氏名： Otaki Junji

研究協力者氏名： アメンゲアル オルガ

ローマ字氏名： Amengual Olga

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。